

議員の知見と活動の集約

一般質問は、町政全般にわたって、議員個人が執行機関に質問し見解を求めるものです。議員の知見と活動の集約であり、議会活動の「花形」とも言われています。吉岡町議会では、質問・答弁をあわせて、1人60分以内の持ち時間があります。

■富岡 大志 議員……………6ページ

1. 全国手話言語市区長会への加入を
2. 吹部楽器購入にG C F活用を

■坂田 一広 議員……………11ページ

1. 予算規模の大きい事業の優先順位は
2. 町の財政状況をどう考えるか

■宮内 正晴 議員……………7ページ

1. 町内の交通量調査の結果は
2. 防草シートの利用促進は

■小池 春雄 議員……………12ページ

1. 給食費無料化踏み出すべきだ
2. 町施設のトイレ洋式化は

■大井 俊一 議員……………8ページ

1. 祭りを自治会離れの防止の一助に
2. 道路へ矢羽を設置し安全確保を

■飯塚 憲治 議員……………13ページ

1. 学童クラブの入所条件の緩和は
2. 部活動の地域移行の効果と現状は

■小林 静弥 議員……………9ページ

1. 学校や幼・保育園の感染症対策は
2. 大規模地震発生時の想定は

■富岡 栄一 議員……………14ページ

1. 工業誘致エリアその後の対応は

■飯島 衛 議員……………10ページ

1. 新たな物価高騰対策支援を
2. 不登校の子どもの保護者へ支援を

■藤多 ゆかり 議員……………14ページ

1. 新駅設置について町の取り組みは

■山崎 守人 議員……………15ページ

1. 天神東公園にホテルの誘致はどうか

全国手話言語市区長会への加入を



とみおか たいし 富岡 大志 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 ぜひ参加したい

問 「全国手話言語市区長会」は、聴覚障害者に対する情報保障の環境整備を進め、全国自治体の施策展開の情報交換を行っている。町村長も準会員として入会できるので、強くお勧めしたいが。

答 町長 各自治体の手話の関連施策や、関係団体との連携協力などについての見識を広める効果が期待できる。ぜひ参加したい。

問 毎年9月23日の「手話言語の国際デー」では、国内の手話言語に対する意識を高めることを目的とした「ブルーライトアップ



手話言語デーにライトアップされた全日本ろうあ連盟結成の地記念碑（渋川市伊香保）

「プ」という取り組みがある。群馬県では、全日本ろうあ連盟結成の地である渋川市伊香保をはじめ、23カ所で行われた。本町でも関係団体と協議し、進めようか。

答 企画財政課長 施設整備ができれば、関係課局と協議の上、ライトアップができればと考えている。

問 町職員の手話への理解を広めるため、全体研修として手話研修を進めてはどうか。

答 総務課長 令和6年度に職員の全体研修での実施を検討中。また、職員有志による週1回の自主勉強会が始まっている。

答 介護福祉課長 できれば、吉岡町の手話サークル「ぶどうの会」の皆さんを勉強会にお招きし、ご指導を仰ぎたい。

問 「災害時障害者支援用パンダナ」の配備を。避難の際に、聴覚障害があること、手話ができることが明示されれば、適切な支援

につながると思うが。

答 介護福祉課長 パンダナで障害があることを周囲に伝える

吹部楽器購入にGCF活用を

ガバメントクラウドファンディング

答 実現可能

問 吉中吹奏楽部では、部員の数に対して楽器が不足しているようだが、楽器は価格が高く、購入はすぐには進まない。そこで、楽器の購入に※GCFの活用を提案するが。

答 企画財政課長 寄付額の結果は別としても実現可能。教育委員会事務局と相談し、できることは進めたい。

問 吉中の一部教室では、通信環境にながりにくく、授業の進行に影響が出ているようだ。できるだけ早い対応を求めるが。

答 教育委員会事務局 長 教育でのICT活用が進む自治体の共通課題。吉中では、アクセスポイントの増設やルーターのバージョンアップなどで改善。また、町内3校で、通信回線の増設を現在進めている。

ミニ解説

※GCF（ガバメントクラウドファンディング）ふるさと納税制度を活用したクラウドファンディング。



みやうち まさはる
宮内 正晴 議員



録画映像は
こちらをCHECK

町内の交通量調査の結果は

答 令和5年12月中に提出

問 令和5年10月22日に実施した、交通量調査の活用方法は。

答 建設課長 現在、分析中。報告書は令和5年12月中に提出。この報告書を基に

関係機関と協議したい。

問 大久保中町西交差点の右折規制の考えは。

答 建設課長 吉岡町通学路安全推進会議など関係機関と対策を検討。

問 同交差点の右折レーン延長の考えは。

答 建設課長 改善策の検討をしたい。

問 JR上越線側道の除草回数が増は可能か。

答 町長 年間除草計画で対応。JR東日本高崎支社と協議検討。

防草シートの利用促進は

答 各施設で利用を検討

問 防草シートの公共施設への利用促進の考えは。

答 企画財政課長 除草は年次計画で実施。防草シートは各施設。

設入利用を検討。

問 群馬総社駅西口開発に、町はどう向き合うのか。

答 企画財政課長 動向を注視し、前橋



渋滞解消はいつになるのか (大松信号交差点)

市と引き続き協調を図っていく。

問 町の空き家は何戸で、所有者確認はしているのか。解体費用の助成事業拡充の考えは。

答 町長 町内の空き家件数は301戸。で不明空き家は81戸。

答 建設課長 「吉岡町老朽危険空家除却支援事業補助金」があり、老朽危険家屋も対象。

問 所有者不明土地の事案はあるか。

答 建設課長 正常に登録されていない「表題部所有者不明土地」は筆数で307筆。

問 町の保育園の待機児童ゼロへの対策は。

答 町長 各園と連携協議。待機児童ゼロの対応策を考える。

問 町は「こども誰でも通園制度」をどう考えるか。

答 健康子育て課長 各園と協議連携し、対応策を検討。

問 狂犬病予防注射の周知徹底を。

答 町長 はがきによる案内状や、「広報よしおか」で周知。

答 住民課長 4月と10月の広報で実施。さまざまな方法で周知徹底。

問 県・町指定の文化財が、暮らしのガイドブックのタウンマップに記載されていないが。

答 教育長 ガイドブック作成、動画配信など普及啓発を実施。

答 企画財政課長 次回発行時に検討する。

問 三宮神社入り口に、案内板の設置予定は。

答 教育委員会事務局 長 設置には課題があり、インターネットによる情報発信を検討したい。

祭りを自治会離れの防止の一助に



おおい しゅんいち
大井 俊一 議員



録画映像は
こちらをCHECK

答 振興助成金で支援

問 子どもが参加する自治会の祭りは、町民融和と郷土愛を育み広げていく好循環を生んでいく大切な事業では。自治会離れの防止の一助になるのでは。

答 町長 よりよい祭りの検討を重ね、自治会振興助成金により継続支援したい。

答 総務課長 みんなが楽しめる魅力的な事業を開催することが、自治会加入の後押しになるとの意見もある。転入者には自治会連絡票を配布。地域の助け合いを強調する面から、防災における互助の必要性を説明している。

問 群馬県の中学生と高校生がともに、自転車事故発生率2年連続全国1位になった。町の対策として小中学校周辺道路の自転車通行帯（矢羽）設置で安全教育を図っては。風光明媚な上野田内道路への矢羽の設置で安全を確保し、自転車の来町者にもてなしをすることは、町の評価を上げるのでは。

答 建設課長 調査研究していく必要がある。

答 総務課長 小学校の時から、矢羽を身近に体験していることは、高校生世代の自転車事故防止につながる。現時点で町内にないため、交通安全教育

問 大型商業施設の地域行事への参加などの現状と将来について、町の把握状況は。すでにジョイフルスローピッチソフトボール大会や自治会行事への協賛がなされているため、明るい町づくりにつながる事業への情報提供を。

答 町長 県大規模小売店舗の地域貢献ガイドラインにより、地域と協調・協働し合い、両者が発展する関係を維持。地域貢献を期待したい。

答 産業観光課長 県産業観光課長 県ガイドラインの地

問 域貢献活動計画書および実施状況報告書に具体的な記載がない。

答 新聞などで、榛東村と安中市の文化の記事が多くみられるが、吉岡町は少ない。主催者・関係者・興味を持つている人にとって重要と思われるが。

問 企画財政課長 ポランティアなどイベントや事業に関わった人にとって、大きな励みと誇りにつながる。今後できるだけ情報発信していきたい。

道路へ矢羽を設置し安全確保を

答 調査研究をしていく

問 群馬県の中学生と高校生がともに、自転車事故発生率2年連続全国1位になった。町の対策として小中学校周辺道路の自転車通行帯（矢羽）設置で安全教育を図っては。風光明媚な上野田内道路への矢羽の設置で安全を確保し、自転車の来町者にもてなしをすることは、町の評価を上げるのでは。

答 建設課長 調査研究していく必要がある。



狭道に矢羽設置で子どもを守る



こばやし しずや
小林 静弥 議員



録画映像は
こちらをCHECK

学校や幼・保育園の 感染症対策は

答 ICT を活用した仕組みができた

問 学校や幼・保育園の感染症対策は、コロナ禍の経験が生かされているのか。

答 教育委員会事務局 長 町の小・中学校では、インフルエンザの流行により、家庭での健康観察を実施。体調不良者の早期発見に努めている。この際、児童・生徒に配布した端末を利用。欠席フォームから健康観察の様子を把握するなど、ICTを活用した仕組みができたことは、コロナ禍を経験した成果であると考ええる。

答 健康子育て課長 保育園などの感染

症対策については、コロナ禍同様、基本的な感染予防対策として、手洗い・うがい・換気などを行う。感染状況により、登園自粛や園医と相談してクラス閉鎖などの対応を考える。

問 子ども食堂に、ごみ袋や掃除道具など

が支給されるような町の支援があれば、より充実できると思うが。

答 建設課長 ボランティアで行われる通学路のごみ拾いなどの支援策については、ごみ袋の配布など、今後の課題として検討。

大規模地震発生時の想定は

答 収容人数534人を1カ月間

問 関東大震災から100年。吉岡町では、大規模地震に対し、災害避難者の収容人数、収容期間をどのように想定しているか。

答 総務課長 大規模地震発生時の避難者の具体的な収容人数は、町内小・中学校の体育館と、社会体育館・コミュニティセンター

・文化センター・学童クラブ施設などで、

合計534人を想定。これは、感染症に配慮した数字なので、実際にはより多く収容できると考えている。地震発生から1カ月間は、小・中学校体育館や社会体育館などで避難生活を送る人が多数いることが想定される。

問 町の情報管理セキュリティで、サイバー攻撃に対する対策は。

答 企画財政課長 サイバー攻撃に対し

では、不正アクセス防止や盗聴防止、24時間365日不正な通信の監視などを行っている。

問 駒寄スマートIC(こまぎスマートIC)西側の開発予定地域で、大型物流倉庫誘致の考えは。

答 産業観光課長 あらゆる物流施設では、従業員用のカフェテリ

ア・コンビニ・クリニックなどを地域の住民に開放。また、自治体と協定を結び、災害時に一時避難施設として、住民向けの防災用品を備蓄する例も見られる。町としても、地域経済に好循環をもたらす企業を誘致できるように、あらゆる方向から検討したい。



地震発生から数カ月間は、多数の避難生活者がいると想定される(指定避難所である社会体育館)